

令和4年度第2回千葉県慢性腎臓病（CKD）重症化予防対策部会（R4.12.22開催） 議事要旨

【議題(1)①検査のワンチェックオーダーについて】

糖尿病性腎症及びCKD診療を効果的に進めるための診断に必要な不可欠な複数の検査項目をワンチェックでオーダーが可能となるよう検査会社へ依頼時の文書(案)をCKD対策協力医を対象に周知をすることについて、「第1回千葉県糖尿病性腎症重症化予防対策推進検討会」での承認を得て、最終版の文書(案)を部会で検討を行い、令和5年1月開催の千葉県医師会理事会で審議していただくこととした。周知後、半年または1年後を目途に調査等を実施して評価を行う。
→千葉県医師会理事会で承認いただき、令和5年2月に県よりメールにて発信。

【議題(1)②CKD対策協力医及び腎臓専門医への取組状況調査等について】

令和5年1月開催の千葉県医師会理事会で審議後、協力医に向けて調査を実施し、併せて腎臓専門医への調査についても、1月に実施することとなった。
→両調査については1月に実施。

【議題(1)③栄養ケア・ステーションを利用した栄養指導体制の構築について】

千葉県栄養士会では、かかりつけ医へ派遣された栄養士による栄養指導が保険算定可能となったため、栄養ケア・ステーションを活用して栄養士を派遣する形で準備を進めているという。モデルケースとして、CKD対策協力医制度を活用し、その後、その他の医師へ展開することを検討する。また、協力医から栄養士へ栄養指導をオーダーする際には指導内容の標準化が必要となるため、今後CKD重症化予防対策部会で議論を進めていきたい。併せて、次年度にCKD重症化予防対策部会へ千葉県栄養士会から委員の推薦及び出席を依頼したい。

【議題(1)④令和4年度糖尿病性腎症・慢性腎臓病(CKD)重症化予防プログラム取組状況調査結果 (速報値)について】

CKD対策に取り組んでいる市町村数は令和3年度の20市町村から22市町村と若干増えてはいるが、引き続き取組市町村を増やしていく必要がある。

国保については、マンパワー不足により取組みができないといった意見もある。KDBシステムを使用すると受診勧奨者の抽出が容易なため、KDBシステムの研修会など通じて、抽出から受診勧奨までの方法を周知していく。また国保以外については、KDBシステムは使えないため、リーフレットを用いるなどして受診につなげてもらうよう働きかけを行う。

【議題(2)①次年度の計画について】

基本的には今年度の取組みを継続とすることとなった。

新たに、薬剤師会によるCKD協力薬局の公認制度を開始予定であり、研修会を通して薬剤師の方々にCKDに関する理解を高めてもらうとともに、公認薬局一覧を公開することで、患者さんにCKDシールの貼付や適切な疑義紹介等を行える薬局を選んでもらえるようにしていく。

また、KDBシステムについて地域ごとの研修会を開催予定であり、共通課題を認識してもらう等、CKD対策の取組み市町村を増やすための新しい試みを行う。

加えて協力医の登録増加に向けた働きかけを引き続き行っていく。

【議題(2)②県民向け啓発リーフレットについて】

現行リーフレットにYoutubeへリンクするQRコードを追加した改訂版を作成する。

併せて、未受診者への受診勧奨をメインとした新リーフレットを、行動変容の専門家の意見を取り入れながら作成することとなった。